

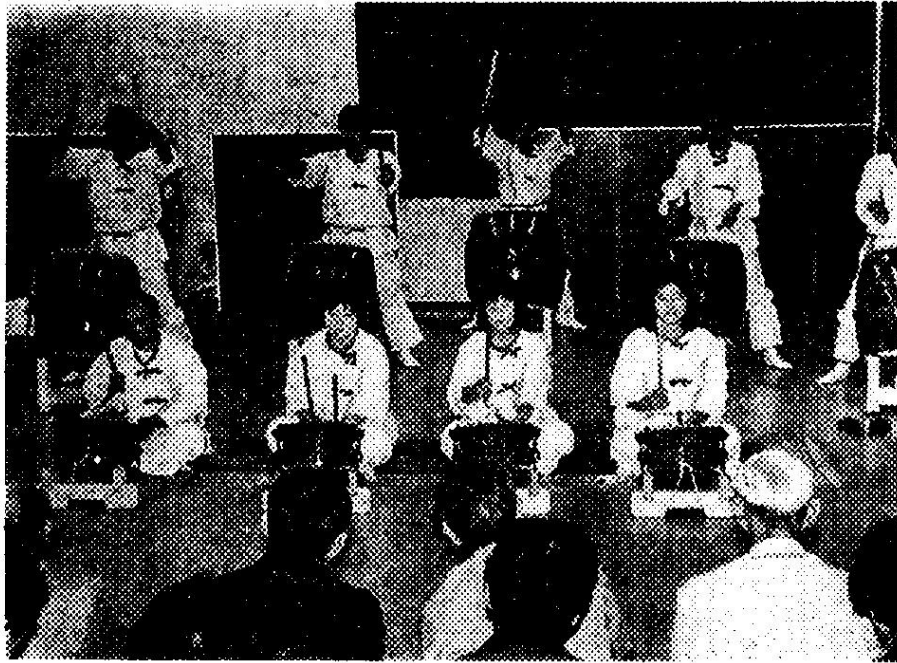
# 荘厳な古墳太鼓誕生

江釣子

## 古代のロマンを表現

### 4年がかりで発足 力強く打ち初め式

国指定遺跡の古墳群が点在する和賀郡江釣子村に創作「古墳太鼓」が誕生。十八日夜に地区公民館で打ち初め式が行われた。打ち手の青年グループはじめ地元民は「廃れてしまった田植え踊りや盆踊りに代わる新しい郷土芸能に」と大張り切り。二十二、二十三の両日開かれる「江釣子古墳まつり」でのお披露目公演に向けて地域全体が燃えている。



力強く産声をあげた古墳太鼓の打ち初め式＝江釣子村第6区公民館

「古墳太鼓」が誕生したのは同村上江釣子の五条丸、本宿両地区の行政組織である第六区(約百世帯)。地域内には国指定遺跡の五条丸古墳、猫谷地古墳がある。昭和六十年春、第六区公民館(高橋直一館長)の首頭で「古墳の里にふさわしい郷土芸能を」と、「古墳太鼓」の創作活動に取り組み始め、約四年がかりで発足にこぎつけた。

「古墳太鼓」は大太鼓五、小太鼓四の構成で、先人たちの息吹をテーマに、古代のロマンを力強く表現した。第一部が先人の鎮魂を意味する「火」、第二部が村内に豊富にわき出ている泉を生きていく希望ととらえた「水」の題名

を付け、一、二部合わせて約十分の舞台。荘厳で力強いリズムが特徴だ。

打ち手は同地区の二十三歳から四十一歳までの十人。このうち女性は二人の主婦を含め三人いる。作曲してもらった宮城教育大学講師で民俗歌舞団ほうねん座代表の佐藤正信氏(宮城県在住)の二十数回に及ぶ実技指導を受けながら週一回、地区公民館で猛けいこを続けてきた。太鼓

などの購入費は地区民の寄付金や文化伝承活動に対する公的助成金で賄った。

この日の打ち初め式には地区民約六十人が詰めかけ、古代人の装束を身に着けた青年男女はさばきを披露する。年たちには大きな拍手を送った。